

グループ討議結果（平成 30 年 3 月 28 日 第 11 回建設検討委員会）

（注）この資料は、第 11 回新火葬場建設検討委員会（平成 30 年 3 月 28 日）で行われたグループ討議において発表された意見と用紙に記録された意見を記載したものであり、決定した事項を記載したものではない。

第 1 グループ

○選考基準

- ・過去に自然災害があった場所を除外する。
- ・久々野火葬場を主に利用している地域（宮峠よりも久々野側の朝日、久々野地域）を除外する。
- ・市役所から半径 10 キロメートルの円と 15 キロメートルの円の帯内の候補地を除外する。全てが市有地の山林で、公募による候補地もなく、久々野地域にも多い。
- ・造成費用、アクセスに関する費用、インフラ整備に関する費用等が高額となる候補地を除外する。すぐに金額は分からないから、評価を A、B、C ランクに分け、A ランクを選考に残してはどうか。
- ・山林を切り開くにはコストがかかる。
- ・水道や電気の整備に要するコストは、資料 6 の社会基盤欄を参考にする。
- ・近隣住民の生活環境に配慮し、住宅地を通行する候補地、住宅地の中にある候補地を除外する（決定時にもめる要因になる）。
- ・公募の候補地は、必ず購入できるものがよい。
- ・基準の順位付けが難しい。
- ・絞込みの条件として 土地の形状、アクセス道路、アクセス道路の幅員などが考えられる。
- ・初めの絞込み基準は機械的なものがよい。

第 2 グループ

○選考基準

- ・敷地の形状が不整形な土地を除外する。
- ・急傾斜地の山林である土地を除外する。
- ・住宅地からの距離がなるべく近くない候補地がよい。
- ・市街地を通らなくても行ける候補地がよい。
- ・清見、高山、丹生川地域を通過する中部縦貫道沿いの候補地を対象として検討するという視点もある。
- ・市役所から半径 10 キロメートルの円内で探すべきではないか。
- ・主要道路からのアクセス
- ・半径 10 キロメートル以内 心の準備

- ・市道に認定される基準を満たす取付道路の整備が可能な敷地
- ・取付道路、上下水道、電気等の整備費用が過大となる候補地を除外する。
- ・町に近いほうがよいという意見もあり、西洞町の候補地も検討するべきではないか。

第3グループ

○選考基準

- ・冬期に通行不可となる場所を除外する。
- ・一之宮、久々野、朝日（南大野郡）、国府地域を除外する。
- ・大規模な道路の整備が必要な候補地を除外する。
- ・山林を除外する。
- ・公募要件を満たさない土地を除外する。
- ・過去に水害があった土地を除外する。
- ・活断層のある土地を除外する。
- ・自然景観が良い候補地が良い。

第4グループ

○選考基準

- ・山の中は難しい。山の造成は防災上も望ましくなく、道路を整備することも難しい。
- ・市街地から離れている候補地は除外する。
- ・家が隣接している候補地はなるべく避ける。
- ・病院、学校、保育園から見える候補地はなるべく避ける。
- ・100メートル以内に住宅がない候補地に絞ってはどうか。
- ・遠近だけではなく、敷地の形状が悪い候補地、平坦ではない候補地、面積が不足している候補地は、慎重に考えたほうがよい。
- ・上下水道を何キロメートルも整備しなければならないような候補地は、慎重に考えたほうがよい。
- ・公募による候補地にも、選考の対象としなくてもよいと思われるものがあり、除外するべきではないか。
- ・お金がかからない場所がよい。
- ・住民の了解を得るのも大事である（町内会の同意）。
- ・開発に規制がかかる（風致地区）
- ・所有者に寄付、提供の意志の確認が必要

第5グループ

○選考基準

- ・市役所から半径5キロメートルの円内が理想的である。10キロメートル以上は現実的ではない。10キロメートル以上離れた候補地は、No.1以外は市有地であり、除外してよいのではないか。
- ・車で30分かかっては遠く感じるから、15分、20分ではどうか。市役所から5キロメートルから10キロメートルの間では、幹線道路からのアクセスのよさがポイントになる。
- ・冬場のアクセス、交通安全を意識してほしい。
- ・近接を避けなければいけない施設はないか。
- ・寺、葬儀場、住宅密集地にしたらどうか。
- ・清見方面が理想（久々野にはすでに火葬場あるため）。
- ・同じ5キロの距離でも、すぐに着く場所、時間のかかる場所がある。
- ・反対があるかないかも基準にする。